

高校生の情報リテラシー向上について

宮城県仙台第三高等学校 43班

背景と目的

情報社会になった今、情報格差というものがより大きな社会問題になっている。
これから大学、社会人となって社会を担っていく高校生にとってICT機器の活用、情報リテラシーを身につけることは必須のスキルになっていくと考えたから。

情報格差 (デジタルデバイト)とは、パソコンやスマートフォン、インターネットなどの情報技術に触れたり使いこなせる人とそうでない人の間に生じる、貧富や機会、社会的地位などの格差。個人や集団の間に生じる格差と、地域間や国家間で生じる格差のこと。

情報リテラシー コンピューターを使えるという意味だけでなく情報にアクセスし、その知識を精査したり活用したりする能力のこと。

高校生の情報リテラシーの現状について

総務省が全国の高校1年生を対象に行っている、ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students) という調査によると総合正答率が71.4%であるのに対して、不適正取引リスク(フィッシング インターネット上での売買)プライバシーリスク(個人情報の流失 プライバシーなど)有害情報リスク(不適切投稿 炎上など)の分野で0%を下回る結果となっている。
毎年の伸びも0.1%~0.3%と小さく、情報化のスピードに対して情報リテラシーの伸びが不十分であると考えられる。

まとめ・結論

以上の理由から、高校生は学校で学んだことだけでなく自ら情報の活用や必要な能力について関心をもつことが必要であると考えた。
情報をそのまま受け取り吸収するのではなく、それが正しいのかという批判的な考えを常に持ちながらインターネットを活用していく必要がある。

情報リテラシーの3つの能力

・調べる力(情報検索能力)
自分が必要としている情報に素早くアクセスし、質の高い情報を見つけ出し、正確性や有益性を見極めて活用する力のこと。

・読み取る力(デジタル読解力)
インターネット上にあるたくさんの情報の中から意味を正しく理解し、必要な情報を適切に抽出する力のこと。

・伝える力(デジタル表現力)
自分が調べたこと、伝えたいことを相手に正しくわかりやすくスライドなどのアプリケーションやその他インターネット上で伝える力のこと。

これらの能力は「読む」「聞く」「話す」「書く」といった国語的な力にとっても似ている。

↓

国語力を鍛えていくことで情報リテラシーの向上につながるのではないか

・国語力・情報リテラシーを向上させる方法

・小説、新聞、雑誌など多様なジャンルの文章に触れて読解力を身につける

⇒分からない言葉や表現があったら辞書で調べたり分からないものをすぐに調べる習慣を付ける。

⇒読んだ内容について自分なりに要約して文章にしたり、読んだことの無い人にどんな内容だったか説明する。
※その際、伝えて終わりではなく自分が伝えたかった内容が正しく伝わったのかや表現が適切だったか振り返りをするとなお良い。

・情報の出処を確認する
⇒いつ、誰が、どこから発信した情報や文章なのかを常にチェックする癖を付ける。

参考文献

総務省 2023年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等に係る調査結果の公表
https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01ryutsu02_02000408.html

